

ミズモトの

数字で見る経済

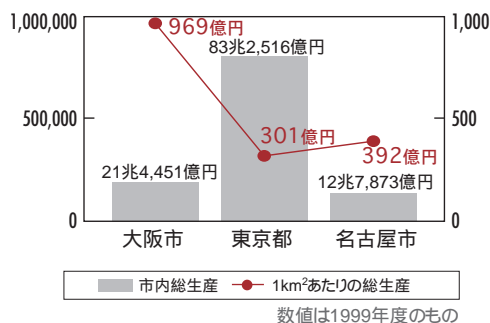
大阪ビジネスの「濃さ」を測ってみよう！
産業活動密度を比べる

水元 雅巳(みずもとまさみ)

1975年生まれのみずがめ座。某大手都市銀行に入行後、「大阪経済の動向に深く関わっている中小企業の実態が知りたい!!」との思いを胸に大阪都市経済調査会へ。「数字のことなら何でもお任せ」の頼れる男だが、実はキャンパー。好きな言葉は、「臨機応変、出たとこ勝負」。趣味は釣。

969億円 大阪市の1km²当たりの市内総生産
301億円 東京都の1km²当たりの市内総生産
392億円 名古屋市の1km²当たりの市内総生産

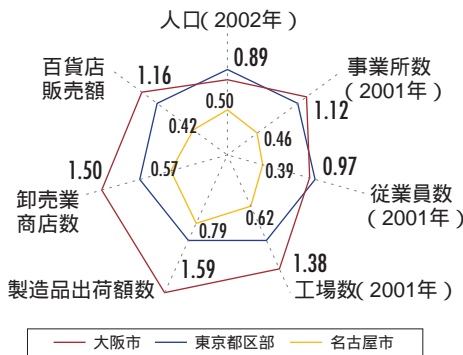
主要各都市の市内総生産と1km²あたり総生産



出所:内閣府「県民経済計算年報(平成14年版)国土地理院調べに基づく総務省の推定(面積)」

1.12倍 大阪市-東京都区部の1km²あたりの事業所数の比

東京都区部・大阪市・名古屋市の産業活動の密度(東京都区部を1とした数値)



出所:大阪市経済局「大阪の経済2003年版」のグラフを編集加工

注:1km²あたりの各項目の密度を、東京都区部の数値を100として比較したもの。「工場数」、「製造品出荷額など」については、全従業者規模の事業所(工場)の数値による。

資料:各都市統計主管課「推計人口」、総務庁「事業所・企業統計調査」、経済産業省「工業統計表」、「商業販売統計年報」、通商産業省「商業統計表」、国土地理院調べに基づく総務省推定

「大阪」という地名の前につく形容詞はいくつかありますが、「商都」という称号はその中で最も有名なものの一つです。今回は、大阪のどのような点が「商都」なのかを考えてみましょう。

大阪市の市内総生産、つまり経済の規模は約21兆円で、これは東京都の約83兆円と名古屋市の12兆円の間に位置します。ここまではごく普通の話です。

ところが、この数字を大阪市なり東京都の面積で割って、面積当たりどれくらいの総生産があるかを出すと面白い結果が出てきます。大阪市の1平方キロメートル当たりの市内総生産を計算すると969億円で、東京都の3.2倍、名古屋市の2.5倍というものすごい数字になります。大阪市内では、半径560メートルほどの円(ちょうど1平方キロメートルくらいになります)の中で規模にして1,000億円近くの経済活動が行われているのです。

市内総生産と同じように大阪市の経済活動を表すいろいろな指標を面積あたりになおして各都市と比較すると、大阪市の

ビジネスの密度の高さがよくわかります。例えば1平方キロメートルあたりの事業所数は東京都区部より1割程度多く、工場数、卸売業商店数は東京都区部や名古屋市を大きく上回ります。

このように面積当たりの事業所数や工場数が比較的多いのは、大阪市の市域が狭いこともありますが、なにより大阪は全国の中でも非常に企業の密度が高い街であるからです。また、製造品出荷額や百貨店販売額といった企業の活動の密度を示す指標も大阪市の数値は東京都区部より高くなっています。これは、同じ面積あたりでは大阪の方がたくさんの製品が製造され、たくさんの商品が販売されていることを示しています。大阪は、(日)企業の密度が高い(月)事業活動の密度が高い、という2つの面で非常にビジネスへの特化が進んだ街ですが、このような都市は全国でも珍しく、このビジネス密度の高さ、すなわち「濃さ」が大阪の「商都」たる所以であると言えるでしょう。